


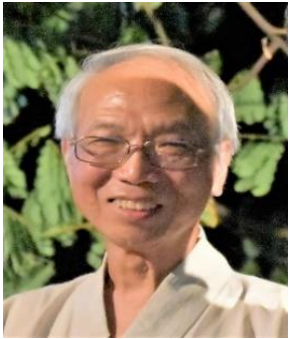









講師リスト



2020年8月29日

写真	名前	講義担当分野	主なカバー国	国際協力の経験
	<p>池田 明子 Ms. IKEDA, Akiko</p>	<p>国際協力、PKO 平和維持活動、開発一般（女性、社会開発）</p>	<p>中近東及びアフリカ</p>	<p>国連機関での経験 26 年：国連事務局（社会開発、PKO 平和維持活動）、FAO 食糧農業機関。フィールドの経験 10 年（イラク、コートジボワール、リベリア、レバノン、エジプト）。</p>
	<p>香川 重善 Mr. KAGAWA, Shigeyoshi</p>	<p>開発コンサルタント（水資源・給水・環境）調査技術、研究開発（地下水・飲料水）ODA（無償・開発調査・技プロ等の計画監理、契約、調査、報告書、評価等）。</p>	<p>アジア、アフリカ、中東、中米など日本 ODA 諸国 38 年間と石油開発 5 年を経験。</p>	<p>国際開発（ODA 業務主任）、研修講師。1) アフリカ地域「水資源の開発と管理」JICA 研修、2) カウンターパート研修(地下水開発・給水計画・参加型維持管理の分野)、3) 大学院途上国留学生研究支援。</p>
	<p>加藤（山内）珠比 Ms. KATO, Tamahi</p>	<p>専門分野は「貧困削減」「政策分析」「平和構築」「インパクト評価」「プロジェクト評価」「アフリカ地域研究」等。</p>	<p>海外生活 15 年、日本 14 年と半分以上を海外で過ごしている。英国 7 年弱、タンザニア 4 年余り、グアテマラ 3 年、ニューヨーク 1 年、他短期出張での訪問国中南米を中心に多数。</p>	<p>これまで開発コンサルタントとして実務の仕事をしてきたが、研究生活を経て今後は開発実務、研究双方に目配りして貢献したいと考えている。現在、アフリカ地域の農業・農村開発について研究している。</p>

	<p>神田 道男 Mr. KANDA, Michio</p>	<p>経済開発、技術移転、地域協力、環境問題、プロジェクト運営管理手法。</p>	<p>フィリピン、インドネシア、ミャンマーなど多数。(特に島嶼部アジア地域)</p>	<p>JICA・外務省経済協力局において40年にわたり、技術協力、無償資金協力を実施。この間、案件の形成・調査、援助人材の養成、援助案件の質の向上に関わる。</p>
	<p>小久保 和代 Ms. KOKUBO, Kazuyo</p>	<p>社会福祉、キャリア・カウンセリング。</p>	<p>カンボジア、タイ、インドネシア、スリランカ、タンザニア、ルワンダ、ナイジェリア等。</p>	<p>国際法律特許事務所、多国籍企業を経て、世界銀行東京事務所に入行。資金調達、報告書担当を経て、世銀本部で働く専門職の採用担当。2004年よりODAコンサルタントとしてキャリア・ガイダンス、産業人材育、産業連携などを経験。</p>
	<p>小林 文彦 Mr. KOBAYASHI, Fumihiko</p>	<p>プロジェクトファイナンス。 ワークアウト(企業再生と不良債権回収)。開発援助。 グローバルに働いた経験。</p>	<p>IFCと伊藤忠商事の計40年の業務で訪問した国は60カ国以上、その内アフリカは16カ国。米国勤務は伊藤忠商事ニューヨーク(10年)とIFCワシントン本部(11年)の計21年。</p>	<p>多国籍・多文化ビジネス環境の下での各種製造業(製紙・製鉄・食品・セメント等)、農業、水産業(エビ養殖・農園等)、ホテル、鉄道インフラ、鉱業等のプロジェクトファイナンスとワークアウトで多くの修羅場を経験。</p>

	<p>佐藤 桂子 Ms. SATO, Keiko</p>	<p>公共経済、開発プロジェクトモニタリング及び評価、開発プロジェクトポートフォリオマネジメント、プロジェクト人材育成、援助協調、援助戦略策定。</p>	<p>東アジア、主に中国とベトナム； トルコ。トルコに3年、ベトナムに7年在住。</p>	<p>世銀東京事務所広報官を始めとして、東アジア局で援助協調、中国の公共部門改革プロジェクト、トラストファンドマネジメントなどを担当。駐在勤務でトルコとベトナムのポートフォリオマネジメント、プロジェクト管理強化、国別援助戦略などを担当。</p>
	<p>鈴木 博明 Mr. SUZUKI, Hiroaki</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 自分の経験に基づいた、国際開発金融機関等でのキャリア開発； ● 開発プロジェクトサイクルの概要とプロジェクトサイクル各段階の開発金融業務；及び ● 世銀での調査研究経験に基づいた開発調査研究の進め方。 	<p>中国・インドネシア・インド・パキスタン・ブルキナファソ・チャド・ニジェール・エジプト・チュニジア・アルジェリア・コロンビア・ジャマイカ</p>	<p>1975 -1986 海外経済協力基金(現 JICA) アフリカ円借款業務、カイロ中近東地域駐在員事務所駐在員、マネージメントコンサルティング企業出向 1986 -2013 世界銀行 アフリカ局（ザイルローンオフィサー、国営企業改革）； 南西アジア局（国営企業改革、都市開発）； 東アジア・大洋州局（都市開発）； 持続可能な開発総局（都市開発戦略・調査研究） 2014— 世銀、ADB、UN、JICA 等の都市金融・開発コンサルタント及び東京大学大学院等講師</p>
	<p>高橋 一生 Prof. TAKAHASHI, Kazuo</p>	<p>国際公務員のあり方について（国際的忠誠、国際公共財の担い手など）。会議を通じての仕事の進め方。マルチ・ステークホルダーたちのまとめ方。多様な報告書の書き方。</p>	<p>アメリカ9年、フランス11年。</p>	<p>OECD DAC ではベーシック・ヒューマンニーズなどの担当として、コンセプト作成、それを援助機関共通のものとする作業が中心。その後、事務総長室課長としては国際参謀として冷戦と南北関係の接点に関する作業に従事。</p>

	<p>玉置 佳一 Mr. TAMAKI, Keiichi</p>	<p>都市開発・土地利用政策 都市交通 公共交通指向型開発 (TOD) 上下水道 観光開発 官民連携 (PPP) ゴミ処理・し尿処理・環境問題</p>	<p>インド バングラデシュ ネパール ブータン スリランカ インドネシア</p>	<p>(大阪市役所都市整備局に勤務の後) 1991年から2000年まで世界銀行のインドネシア都市開発チームの一員として働き、短期間日本の国際協力銀行(現在のJICA)で働いた後、2001年から2017年までアジア開発銀行で勤務。</p>
	<p>仲 浩史 Mr. NAKA, Hiroshi</p>	<p>世界銀行で活躍してみたい人との懇談</p>	<p>特になし</p>	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 財務省国際局開発政策課長として、日本のODA政策などを担当(2008年~2009年)。 ➢ 世界銀行副総裁兼内部監査総長として、世界銀行の開発オペレーションなどを監査(2014年~2018年)。 ➢ 東京大学未来ビジョン研究センター教授として、同大公共政策大学院で世界銀行の開発オペレーションを講義(2019年~)。
	<p>藤村 建夫 Mr. FUJIMURA, Tatsuo</p>	<p>開発経済学、中小工業開発、南南協力、プロジェクトの運営管理、PCM手法、援助人材の養成。</p>	<p>海外生活は英国2年を皮切りにミャンマー3年、ニューヨーク10年、上海3年、合計18年に亘る。アジア、中東、アフリカ、南米計40途上国を訪問した経験。</p>	<p>JICA 鉱工業開発協力部、企画部、国際協力総合研修所、ミャンマー事務所長を歴任。(財)国際開発高等教育機構へ出向。UNDPで南南協力部、南南協力ニア・アドバイザー。</p> <p>退職後、上海環境エネルギー交易所上級顧問を経てミャンマー・日本エコツーリズム(MJET)会長。同時に日本ミャンマー友好協会監事として、日本とミャンマーとの文化交流と投資促進に従事。</p>

	<p>松田 教男 Mr. MATSUDA, Norio</p>	<p>開発協力（援助政策・アプローチ、農業・農村開発他）、国際情勢（政治、経済、歴史）</p>	<p>東南アジア</p>	<p>1976年～2012年：JICA 駐在国：インドネシア（2012～2014、1985～1988）、フィリピン（2007～2011）、カンボジア（1999～2002） 2014年～2019年：北海道教育大学（国際協力論他担当）</p>
	<p>和氣 邦夫 Mr. WAKI, Kunio</p>	<p>国際開発協力人材養成 グローバルリーダーシップ マネージメント コミュニケーション 危機管理 SDGsの実践 国際協力とパートナーシップの構築</p>	<p>インド パキスタン バングラデシュ ナイジェリア タイ インドネシア</p>	<p>ECFA3年、その間 OTCA より専門家としてインドネシア電力調査8ヶ月、中近東工業開発調査に1ヶ月派遣される。 国連開発機関 36年間勤務：ユニセフ 26年間、パキスタン、ナイジェリア、東京事務所長、東アジア地域事務所次長など歴任、その後 UNDP UN Development Group Office 事務局次長として国連改革に従事、最後は国連人口基金事務局次長として7年間勤務。 2007年に退官後は関西学院大学総合政策学部客員教授として2018年まで教える。</p>